

宇奈月温泉・地鉄沿線地区 (一期)

(富山県黒部市)

- 計 画 期 間 平成 20 年度～平成 24 年度
- 面 積 912 h a
- 交付対象事業費 3,198 百万円
- 市人口 40,361 人

ポイント 富山地方鉄道を中心軸とした観光と地域の交流活性化

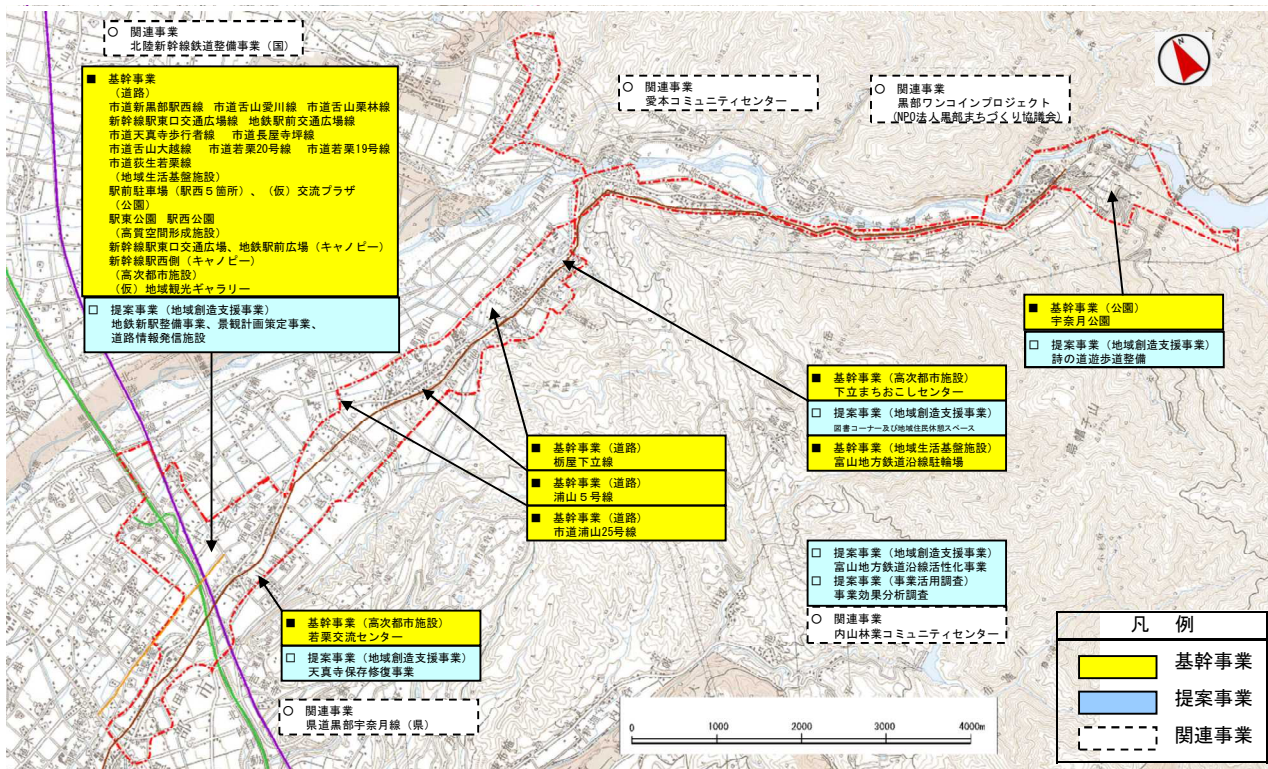
地区概要 富山地方鉄道沿線の観光や地域の魅力を高めるとともに、公共交通の活性化と乗降客数の増加を目指す。

目 標 富山地方鉄道沿線の魅力を高め、観光客や電車乗降客数の増加を図り、活性化を目指す。
 ・観光開発などによる来訪者数の増加 ・各種事業の実施による魅力ある地域づくり
 ・イベント等の実施による鉄道乗降客数の減少の阻止

指 標 交流拠点整備と公共交通活性化により、鉄道や各施設の利用者、イベントへの参加者数の増加を目標とした。

沿線公共施設利用者数	246,277 人/年 (H18) → 252,100 人/年 (H24)
イベントへの参加人数	8,550 人/年 (H18) → 11,800 人/年 (H24)
地区内地鉄駅乗降客数	736,413 人/年 (H18) → 736,400 人/年 (H24)

事業内容 基幹事業 (3,059 百万円) → 道路 (14 路線)、公園 (3 箇所)、広場、P & R 駐車場
 自転車駐輪場、キャノピー
 地域交流センター、観光交流センター、まちおこしセンター
 提案事業 (139 百万円) → 地鉄沿線活性化事業、天真寺保存修復事業、
 詩の道遊歩道整備、図書コーナー及び地域住民休憩スペース、
 地鉄新駅整備事業、道路情報発信施設、景観形成策定事業



地区の現況と課題

この地区は、江戸時代加賀藩主の参勤交代路であった「上街道」が通り、宿場町等として街道沿いに集落が形成されてきた。大正末期に黒部奥山の電源開発を目的として鉄道が敷設され、終点に宇奈月温泉が開湯し、黒部峡谷鉄道の開業も相まって発展してきた。

近年、黒部峡谷の探勝に訪れる観光客の「駆け足観光」の増加に伴い、温泉旅館の宿泊者数の減少が見られ、一方、観光客や地元住民の足である富山地方鉄道においても、自動車の普及に伴い乗降客減少の一途をたどっており、地区全体が弱体化している。

しかし、平成 26 年度開業予定の北陸新幹線の新駅が当地区に計画されたことにより、富山地方鉄道が新幹線新駅と富山県東部各地を結ぶ公共交通として存続させるための方策を講じる必要がある。

▼ 整備前の新幹線新駅周辺



▲ 整備後の新幹線新駅周辺

提案事業の特徴

地鉄沿線活性化事業

富山地方鉄道沿線の歴史・文化を紹介するシンポジウムやツアー開催・マップの作成など観光開発により、さらなる観光客の誘導や鉄道駅乗降客数の増加を目指した。

天真寺保存修復事業

初代富山県知事の私邸を移設した天真寺松桜閣は、全国的に数少ない楼閣の数寄屋建築で建築学的にも評価が高い。管理や観光案内等の運営母体となるNPO法人が主体となり復元修復し、新駅周辺の歴史文化ゾーンとして観光客誘致を図った。

景観形成策定事業

新幹線新駅から北アルプスの美しい眺望を確保し、周辺の田園等の景観との調和を図ることを目的に、景観づくりに関する協定締結において地権者らの支援を行うもの。

計画策定プロセス

宇奈月温泉街まちづくり調査（都市再生本部）

行政（旧宇奈月町）、商工会、自治会・観光・旅館等の団体代表や女性・若手などにより、地域の共通理解、温泉街の現状や課題、活性化のためのまちづくり方針について検討した。

北陸新幹線新駅周辺整備計画検討委員会

行政（北陸地整、県、市）及び大学教授、鉄道事業者、まちづくり協議会等の各種団体で構成する検討委員会を開催し、新駅周辺整備や土地利用、交通、景観に対する計画を検討した。



▲ 宇奈月温泉まちづくり委員会の様子



▲ 富山地方鉄道



▲ 天真寺